

運動器疾患患者の生活空間に関する研究の動向

Research trends on the life-space mobility in patients
with musculoskeletal disorders

飛永敬志

獨協医科大学埼玉医療センター リハビリテーション科

Takashi Tobinaga

Department of Rehabilitation Medicine, Dokkyo Medical University Saitama Medical Center

キーワード: 運動器疾患, 生活空間, 変形性膝関節症, 人工膝関節全置換術, 整形外科

Key words: musculoskeletal disorders, life-space mobility, osteoarthritis of the knee, total knee

【要旨】

目的:本研究は運動器疾患患者を対象に Life-Space Assessment (LSA)を用いた生活空間に関する研究についてナラティブレビューを行い, この分野における研究の最新動向を把握するとともに, 今後の課題を明らかにすることを目的とした。

方法:文献収集は 2019 年 5 月までに公表された論文を PubMed, 医学中央雑誌 WEB 版のデータベースを用いて文献検索を行った。検索に用いたキーワードは, 英文誌については “life-space mobility” を “musculoskeletal disorders”, “orthopaedics”, “knee osteoarthritis”, “total knee arthroplasty”, “hip osteoarthritis”あるいは “total hip arthroplasty”で AND 結合したものを, 和文誌については「生活空間」を「筋骨格障害」, 「整形外科」, 「変形性膝関節症」, 「人工膝関節全置換術」, 「変形性股関節症」あるいは「人工股関節全置換術」で AND 結合したものをを用いた。そして採択基準に基づき, 必要なデータを抽出した。

結果:採択論文 14 編すべてが日本で実施されており, 研究デザインは横断研究 8 編, 前向きコホート研究 5 編, 非ランダム化比較試験 1 編であった。採択論文は 1) LSA の回復過程を調査した論文が 3 編, 2) LSA に影響を及ぼす因子を検討した論文が 8 編, 3) LSA をアウトカムにプロトコールの効果を比較した論文が 1 編, 4) LSA とそのほかのアウトカムとの関連を検討した論文が 4 編, 5) LSA を改善するための介入研究が 1 編であった。

結論:運動器疾患患者の生活空間に関する研究は少なく, 研究実施国は日本に限定していた。生活空間に影響を及ぼす因子は身体機能的要因と心理的要因および環境的要因などの多因子が関与しており, 多方面からアプローチする必要がある。またウォーキングイベントなどの行動科学的介入も効果が期待できる。今後, この分野における質の高い研究成果の蓄積が望まれる。

スポーツ科学研究, 18, 97-106, 2021 年, 受付日:2021 年 8 月 6 日, 受理日:2021 年 10 月 14 日

連絡先: 飛永敬志 343-8555 越谷市南越谷 2-1-50 獨協医科大学埼玉医療センター

tobinaga@dokkyomed.ac.jp